広上淳一＆日本フィル「オペラの旅」始動！

インタビュアー：山田 治生

フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）の広上淳一が、2025年4月にヴェルディのオペラ《仮面舞踏会》を取り上げる。昨年7月のレオンカヴァッロ《道化師》に続く、広上＆日本フィルのオペラの取り組だ。今回の《仮面舞踏会》は、高島勲の演出が入るセミ・ステージ形式で、広上＆日本フィル「オペラの旅」初回となる。

©Masaaki Tomitori

――マエストロは昨年、日本フィルの東京定期演奏会で《道化師》を取り上げられました。2025年4月の《仮面舞踏会》はそれに続くものなのでしょうか？

これは新しい試みで、高島勲さんの演出を入れたセミ・ステージ形式としてシリーズ化したいと思っています。《仮面舞踏会》はその第1弾です。僕は死ぬまでに、1、2年に一度くらいのペースで、オペラをゆっくりやってみたいと思っていました。

昨年の《道化師》は、良いキャストで、オーケストラも含めて、ものすごい演奏会になりました。日本フィルは、よく準備して、楽しんでオペラを演奏していました。そして、丁寧につくるとオペラはこうなるというのを示すことができました。日本フィルはオペラも上手いぞと思っていただけたと思います。

©山口 敦

2023年7月東京定期演奏会より《道化師》（演奏会形式）

今回のシリーズでは、サントリーホールを知り尽くした高島さんに演出をしていただき、衣裳をつけ、演技を入れ、照明も利用し、小道具も使って、限られた予算のなかでオペラとしての味わいを満喫してもらいたいと思っています。このシリーズが、たぶん、僕の日本フィルでの最後の大きな仕事になるのではないかなという感じがしています。

――第1弾に《仮面舞踏会》を選ばれた理由は何でしょうか？

《仮面舞踏会》は、1989年、シドニー・オペラハウスで指揮した、思い出のオペラです。30歳くらいの頃でしたが、僕にとってはそのときが初めてのピットでの指揮でした。2か月くらいシドニーに滞在しました。最初はカバーの歌手たちと練習して、だんだん広いスタジオに移って、最後はシアターに行くのですが、本番直前にレオーナ・ミッチェルらメトロポリタン・オペラで活躍している歌手たちが来て、本番は11回ありました。オペラってこうやって作るのかと知りました。脱線しますが、そのとき、シドニーの串焼き屋で岩城宏之先生と偶然会ってお話ししたのが、今のオーケストラ・アンサンブル金沢での仕事につながります。

《仮面舞踏会》は、30年以上ぶりに、2023年の宮崎国際音楽祭で勉強し直し、最後にもう一度、日本フィルときちっとやりたいと思い、このシリーズの第1弾に持ってきました。

――《仮面舞踏会》のどのようなところに魅力を感じますか？

《仮面舞踏会》には、ヴェルディ先生が晩年に巨大に開花してワーグナー先生をも凌ぐ音楽を書く、その萌芽を見ることができます。アリアが充実していて、すべての歌手が活躍できるように書かれています。狂言回しにオスカルが出てきて、ウルリカのミステリアスな活躍もあります。最後にリッカルドの赦し、寛大さがあります。三角関係、恨み、ジェンダー、純愛など、いろいろな題材の入った傑作ですね。まずは、先入観なく、オーケストラの音楽とアリア、そして筋を楽しんでいただきたいと思います。

セミ・ステージ形式での上演は、歌劇場での上演ではないのでコース料理ではないですが、それなりのオペラをそんなに高くない価格で、響きの良い素敵なホールで、衣裳も付けて、あとは想像を使って楽しむということで、ナポリタンや軽食で結構おなか一杯になった、昔の純喫茶のランチやディナーのセットのようなものと思っていただければよいのではないでしょうか。

――2025年の《仮面舞踏会》では、新しい世代の優れた歌手たちが起用されていますね。

中村恵理さんは、野球の世界でいえば、大谷翔平選手や山本由伸選手のようなものですから、海外と日本の両方で活躍し続けてもらいたい。彼女との共演はオーケストラにとっても刺激になります。若い世代にはすごいのが出てきていますが、宮里直樹さんも、そんな数少ないテノールの一人です。僕たちは優秀な若手の役に立ちたいとも思っています。

――最後に、なぜ今、オペラを日本フィルと継続して取り上げたいと思われたのですか？

長い作品を俯瞰して、大きな波をつかんで作っていくという作業は、日本フィルにとっても、僕にとっても、ためになると思ったからです。そして、これから出てきそうな日本の若い歌手たちをオーディションで選んで紹介していきたいというのもあります。また、日本フィルのお客さまにも総合芸術の醍醐味を味わっていただきたいと思っていたからです。

このシリーズでは、一人に決めないで、いろんな作曲家のオペラを取り上げていきたいと思います。ワーグナー先生のオペラは一度も振ったことがないので、死ぬまでに《ニュルンベルクのマイスタージンガー》はやってみたいと思っています。あと、R.シュトラウスの《ばらの騎士》もやりたいですね。

特別公演

広上淳一＆日本フィル「オペラの旅」Vol.1

ヴェルディ：《仮面舞踏会》

2025年 4月 26日（土）、27日（日）
サントリーホール

指揮：広上 淳一［フレンド・オブ・JPO（芸術顧問）］
演出：高島 勲

アメーリア：中村 恵理　ウルリカ：福原 寿美枝
リッカルド：宮里 直樹　オスカル：盛田 麻央
レナート：池内 響　合唱：調整中

ヴェルディ：歌劇《仮面舞踏会》（セミ・ステージ形式／字幕つき）

開演時間、料金、発売日調整中

©山口 敦